

■広報委員会だより

「小学生のための夏休み『自由研究』教室」(日本大学)での出展

本学会広報委員会では、広く一般に向けた情報発信として、小・中学生を対象とした科学啓発行事に出展を行っています。平成26(2014)年8月9日(土)に日本大学理工学部駿河台校舎で行われました「小学生のための夏休み『自由研究』教室」において、本学会から出展しました。本学会としての参加は6回目となり、今回は、日本大学理工学部にて開催された標記イベントの場をお借りし、プラズマ・核融合に関連する実験などを行いました。当日は、台風が予想される荒天の中、約300組の小中学生親子が来場し、日本大学が募集した自由研究課題に取り組む合間に、本学会の「プラズマであそぼう」と題した展示ブースを訪れて、様々な展示物で遊び、また、クイズに答えながら、プラズマや核融合関連技術について学びました。ブースでは、会員各氏の所属大学、研究機関のご協力により以下の展示・実演を行いました。

- ・プラズマボール (日本大学)
- ・注射器型火花放電装置 (核融合研)
- ・超伝導磁気浮上列車 (核融合研)
- ・人工ダイヤモンド氷カッター (原子力機構)
- ・プラズマ, エネルギー, 磁場等に関する冊子, クイズ, デモ (本学会, 原子力機構, 核融合研)

各展示物の詳細につきましては、本誌の過去の記事もご参照ください。当日は、室賀常務理事、広報委員長・草間、畑山、日渡、上野、水口の広報委員および学会事務局から杉山さんが案内にあたり、また、日本大学浅井研究室の学生さん達にもご協力をいただきました。

磁石のように身近なものを使ったものから、普段は見ることのできない不思議な材料を使ったものまで、いずれの展示も、子ども達が実際に目で見て、手で触れて体験できるものばかりであり、約4時間にわたり、皆さんには大変満足いただけたようです。特に、今回、杉山さんが女性目線で新しく作成した磁石に関するクイズと実験は、子ども達はもちろん、付き添いのお父さん、お母さんの好奇心も大いに刺激したようで、非常に好評でした。家族でクイズの解答、実験を、喧々諤々、楽しみながら行っている様子



写真1 会場の様子。

は印象的でした。いずれにしても、子ども達の反応はいつも新鮮な驚きにあふれており、彼ら、彼女らの将来の進路にも多少なりとも影響を与えられたように感じられ、参加者一同も充実した時間を過ごしました。

社会に向けた情報発信を目的とし、手探りの状態でスタートした本学会のこのような取り組みも、6年目となります。限られた予算と人員の条件下で、学会としての社会責任を果たすための方策として、既存の科学イベントに相乗りする形で、会員各氏より持ち寄った展示物を出展するという手法は、一定の成功を収めてきたように思えます。その間、家電製品等でも「プラズマ」の語が普及し、東日本大震災以降のエネルギー問題への関心の高まりから「核融合」の認知も高まってきたかに思われましたが、今回参加された保護者の皆さんのように、科学への関心が平均よりも高いと思われる方々にさえも、新鮮な感動をもって迎えられるという結果は、嬉しい反面、当学問分野の認知不足を表しているようでもあり、更なる広報活動の充実の必要性を再認識した次第です。

今後も広報委員会として、方策を検討しながら、広報活動を進めてまいりたいと思います。学会リソースの活用のご提案、ご意見、また展示物のご提供のお申し出等がございましたら、広報委員会までお寄せください。

今回の出展にあたり、お世話になりました日本大学理工学部ならびに浅井研の皆様、および展示物をご提供いただきました、日本原子力研究開発機構、核融合科学研究所の各位に、紙面をお借りしまして感謝申し上げます。

(広報委員会)



写真2 プラズマボール, 注射器型放電。



写真3 会場にてスタッフ一同。